

# 画像診断との対比で学ぶ 大腸疾患アトラス

## 胃と腸の腺腫 –同質性と異質性–

西村 聡<sup>1)</sup>, 市川一仁<sup>2)</sup>, 河野孝一朗<sup>1)</sup>, 西上隆之<sup>3)</sup>, 八隅秀二郎<sup>1)</sup>  
Satoshi NISHIMURA Kazuhito ICHIKAWA Koichiro KAWANO Takayuki NISHIGAMI Shujiro YAZUMI

- 1) 公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院消化器センター内科  
2) 社会医療法人神鋼記念会神鋼記念病院病理診断センター  
3) 社会医療法人製鉄記念広畑病院病理診断科

※編集部註：本稿は2016年6月に執筆されました。

腸腺腫と類似病変は管状腺腫、管状絨毛腺腫、絨毛腺腫(類語ではあるが臨床像が異なる絨毛腫瘍という呼称もある。用語としての同質性と異質性を理解する必要がある)に病理組織像として分類される。まず特殊型として、鋸歯状病変がある。鋸歯状病変は、腫瘍に分類されている、好酸性の細胞質と異型を有する traditional serrated adenoma (TSA) と異型がないことから腫瘍類似病変に分類される sessile serrated adenoma/polyp (SSA/P) がある。さらに、SSA/Pには、異型がない鋸歯状だけからなる病変<sup>注1)</sup>と、SSA/Pから発生する腺腫あるいは鋸歯状異型<sup>注2)</sup>が混在する病変とがある。後者はmixed typeあるいはSSA/P with cytological dysplasia(次回掲載予定)と呼称される。

胃癌関連病変でも注目されている病変がある。それは胃型腺腫の特殊型である。『胃癌取扱い規約 第14版(2010)』33頁には「腺腫(Adenoma)：境界明瞭な良性上皮性病変で、管状構造が主体の上皮内非浸潤性腫瘍である。多くが小腸型の細胞形質を示す管状腺腫(腸型, Tubular adenoma, intestinal type)であるが、稀に胃型腺腫が存在する」と記載されている。WHOでは腸型形質として、MUC2/CD10陽性、MUC5AC/MUC6陰性とある。その一方で、管状腺腫(胃型, Tubular adenoma, gastric type)については、「幽門腺型腺腫(pyloric gland adenoma)とも呼ばれ胃上部の結節状隆起で、幽門腺あるいは頸部粘液細胞への分化を示す」と記載されている。

歴史的には腸型腺腫は腸型異型上皮(ATP, ATE), IIa-subtype(福地・望月), 中村Ⅲ型, 扁平腺腫(喜

納)といった呼称もある。大腸型腺腫は中村Ⅳ型, 異型上皮Ⅱ型と分類された時もあるが、現在は分化型もしくは極分化腺癌と考えられている。今回、腸腺腫と比較してとりあげる、いわゆる胃底腺型腫瘍(腺腫/癌)はorganoid patternを保ちながら粘膜下組織にheterotopicに増生する。これらの病変は胃底腺領域内の腫瘍類似病変として問題にされていたが、その成り立ちについて結論には達していなかった<sup>1)</sup>。吉井は、著書「胃の病理(1973年)」のなかで胃を構成する上皮群にそれぞれ前癌病変が存在するとの仮説を示したがこれらに関連した癌の特徴に関する記載はない。服部、九嶋らは腺窩上皮型、幽門腺型、混合型に分類し、腸型腺腫と比較して胃型腺腫の癌併存率は高く24-30%としている。2010年代になって、低異型度腺癌として、主細胞優位の胃底腺への分化を示す新しい癌型があることが、八尾らのグループから提案された。この癌はH.pyloriと無関係な癌として位置づけられ、萎縮、腸上皮化生のない胃底腺から発生する。

大腸ではSSA/P、胃では胃底腺型腫瘍が、従来のdysplasiaの組織とは異なる異型の弱い腫瘍もしくは腫瘍類似病変として、高齢者の前癌病変として消化管領域で注目されている。このような背景から大腸疾患アトラスに「腸腺腫と胃腺腫、およびその関連病変」を追加した。

注1：過形成ポリープとされてきたSSA/Pの組織像の特徴は従来の細胞異型(CAT)と構造異型(SAT)から形態的に腫瘍を診断するadenoma/dysplasiaの形態診断と異なる点である(none dysplasia but have an extended proliferative zone : Riddell RH)

注2：好酸性の細胞質がある場合(TSA)と無い場合(typical serrated adenoma/dysplasia : Riddell RH)がある

1) 望月孝規. 胃腸起性病変の病理と問題点. 胃と腸. 1982; 17 : 379-82.

(監修コメント＝社会医療法人神鋼記念会神鋼記念病院病理診断センター長/福島県立医科大学特任教授 藤盛孝博)